
棘

風華 桜鈴

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

棘

【Nコード】

N5784Z

【作者名】

風華 桜鈴

【あらすじ】

信頼していたのに、裏切られた。そんな小さな棘が忘れようとしても忘れられない。貴女がいる限り私は痛みを耐えなければならぬ。

心のバランスが、壊れていく。

（前書き）

少女がつけた仕打ちをどのようじ捕らえるのかは読んだ方に任せます。無邪気とは怖いものです。私はその無邪気を赦せないと思うこともあります。知らないならいいでは済まされないのですから。

厳しい現実と貴女のくれる優しさが私を生かしていた。

貴女なしでは誰も私を見ない。

貴女がいるから、私は此処に存在する。

不安定なバランス。

一人で立てない、だから貴女が支えてくれないと倒れていしまう。
それなのに・・・手を離すのね。

闇に落ちる前にもう一度手を伸ばしてほしかった。

なのに・・・貴女は・・・。

突き刺さった言葉は抜けることなく私の中で小さな痛みを発している。

好きだったのに・・・。

貴女を尊敬してたのに・・・憧れていたのに・・・。
些細な言葉。多分貴女は気づいてない。

聞いてしまった、他の子たちとの会話。新校舎から逃げて、逃げて・・・。

古びた校舎の裏で私が泣いているなんて貴女は露ほども思っていない。

私がどれだけ傷ついたかなんて判るはずもない。

だって、貴女にこの棘の痛みが伝わらないから。そして、私は伝えようとも思わないから。云って判る問題じゃないと思うから。

そうやってどんどん私の殻は厚くなっていく。

真っ青な空を見上げて目を閉じる。

古びた校舎に真っ青な空。

アンバランスでその間に挟まれた私は・・・青い空の清々しさと古びた校舎の朽ちていく心を持つ。

朽ちてゆくのなら心なんていらない。

なのに、どんなに心を捨てようが小さな痛みは消えない。

貴女の云った言葉は心だけじゃなく身体までも侵していく。
ただの雑談だと貴女はきつと云う。でも私は雑談ですませていられない。

たった一言で朽ちていく校舎のように崩れそうなの。アンバランスだけどうまく成り立っていたのに、壊したのは貴女。

「どこにでもついてきてキモイ。トイレまで一緒かつーの」

爆笑する声が私をあざ笑っている。

たった一つの棘が私のアンバランスを崩し・・・もう、均衡を保てない。

貴女は私が離れても平然としていた。それが、当たり前のようにズキズキと体内の棘が私を攻撃する。目線すら合わせない。

怒っているのは私の方なのに、何故こっちが惨めな思いをしなればならないの？

クラスの皆が笑って話をしている。

こんなにも煩いのに貴女の声拾う私は卑しいと思った。未練たっぷり・・・なのに、貴女は私の事などなんとも思ってたなかった。

それからすぐ学校に行かなくなった。

貴女と顔を合わせるのが怖かった。声を拾ってしまう自分が嫌だった。

変わろうと思ったのは大学受験戦争が幕を開けたときからだった。貴女と離れたくて、必死で頑張った。

必死で頑張ったのは本当だけど・・・本当は一緒にの大学行こうと誘われたかったのかもしれない。

無事大学入学を果たし友人も数人できた。

でも、心に人を入れることはしなかった。殻に閉じこもったまま上辺だけの友人。そうやって人との間に線を引いて防御していた。それこそ周りに棘を張ったのも同然だった。

そうして私は貴女を忘れた振りをして心の均衡を保った。

なのに、貴女は私が何処に逃げようと開放はしてくれなかった。

綺麗に化粧して貴女は前より魅力的になって私の目の前に現れた。

貴女は私に気付かない。

綺麗な貴女には私の格好はみすばらしかったに違いない。

貴女は私に気付かず横を通り過ぎて行った。

棘が疼く。

あの時の痛みを取り戻す。

小さな棘。

だけど、永遠に抜けない棘。

（後書き）

小さいけれど棘は痛いすよね。

人の痛みを判ろうとするのは難しいです。

でも、できるだけ人に優しくしてあげたいと思うのです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5784z/>

棘

2011年12月19日11時57分発行